

基礎看護学実習

実習要項

基礎看護学実習

I 目的

看護を展開するために必要な基礎的知識と実践を結びつけ、看護過程を展開する思考を育て、対象へよりよい看護を作り上げていく力を養う。

II 目標

- 1 看護の対象者との関わりを通し、自己の傾向を知り、看護におけるコミュニケーションについて体験的に学ぶ。
- 2 対象理解に必要な情報を理解し、看護的な気づきから対象理解を深め、対象の望ましい姿に近づくための援助を考え、日々の実践との関連を見出す。
- 3 自己の看護実践を省察し、他者からの意見をふまえ、よりよい看護を追求し、看護者として自己を高める。

III 実習の構造

科 目	単位・時間数	実習時期
基礎看護学実習Ⅰ (コミュニケーション)	1 単位 45 時間	1 年前期
基礎看護学実習Ⅱ (看護過程)	2 単位 90 時間	2 年前期
基礎看護学実習Ⅲ (リフレクション)	2 単位 90 時間	2 年 前期・後期

基礎看護学実習 I

I 実習目標

看護の対象者との関わりを通し、自己の傾向を知り、看護におけるコミュニケーションについて体験的に学ぶ。

II 評価規準（めざす姿）

- 1 患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を知る。（気づく力）
- 2 患者の思いを知るために必要なコミュニケーションを考える。（考える力）
- 3 グループメンバーと協力して実習に臨んでいる。（気づく力）
- 4 情報管理を適切に行っている。（行動する力）
- 5 実習にふさわしい態度や、学び続ける姿勢をもつ。（気づく力）
- 6 医療従事者として、医療チームや患者への影響を考え健康管理に努める。（行動する力）

III 単位数・時間数および実習場所 1 単位 45 時間

実習内容	実習場所	時間数	実習時期
学内オリエンテーション・実習準備	学内	2	1 年
病院概要の説明と見学 病棟のオリエンテーション	静岡市立清水病院	7	
病棟実習		27	
実習のまとめ・ラベルワーク・発表	学内・静岡市立清水病院	9	

IV 学習内容

学習活動	学習内容	評価規準	評価資料
対象とコミュニケーションをとり、その場면을客観的に見つめる。	1) 患者の療養する病院・病棟の施設を見学し、対象となる患者の生活の場について知り、病院の特徴や機能について患者視点で理解する。 2) 看護場面の見学やコミュニケーションの知識を活用して患者とコミュニケーションを通して関わる。 3) 患者との関わりで“気になる”場面をとりあげ、プロセスレコードに記入し、振り返りをする。 4) プロセスレコードを発表し、他者の意見を聞く。 5) プロセスレコードの振り返りを通し、自己の傾向（課題）を見出す。	患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を考える。	プロセスレコード カンファレンスの発言 レポート

看護に必要な患者とのコミュニケーションについて考え、表現する。	1) 看護場面を見学し、患者と看護師のやり取りを観察する。 2) 患者と看護師、患者と自分のやり取りを振り返り、患者はどんな思いを持っているのか、看護師のどのような関わりが患者を尊重しているのかを深く考える。 3) 自己の傾向や望ましいコミュニケーションをふまえながら、工夫して関わりを持っている。 4) 今後におけるコミュニケーションのあり方を表現している。	患者の思いを知るために必要なコミュニケーションを考える。	カンファレンス、グループワークの発言内容レポート
グループ内で協力しあう。	1) グループメンバーと協力してグループ活動、カンファレンスを運営する。 2) 自己や他者の意見交換を活発に行い、看護におけるコミュニケーションとは何か深める。 3) 助言を受けて、グループ内で協力し、改善に向けた取り組みをしている。	グループメンバーと協力して実習に臨んでいる。	実習関係者、メンバーとのやり取りの状況 カンファレンスグループワークの運営
看護者としての倫理的規範を持ち、行動する。	1) 守秘義務を守ることを考えて実習で使用するメモ帳・記録用紙、場による情報提示の管理を適切に行う。 2) 病院内で出会う人々にその場に合う会釈、挨拶、発言を考えながら行動する。 3) 対人援助職、実習にふさわしい身だしなみを整える。 4) 気づきや助言を学びとして、タイムリーに整理し、表現した内容について助言を求めながら実習を進める。 5) わからないこと、困ったことなどを周囲に相談しながら進める。 6) 実習記録を決められた日時に過不足なく提出している。 7) 体調管理を維持するよう生活を送り、体調不良時には周囲に与える影響を考え、行動する。	情報管理を適切に行っている。	情報管理の状況 報告連絡相談の状況
		実習にふさわしい行動をしている。	身だしなみ 態度・言葉遣い
		学び続ける姿勢を持っている。	記録 I 記録の提出状況
		医療従事者として、医療チームや患者への影響を考え健康管理に努める。	健康状態 報告・連絡・相談の状況

V 実習方法

- 1 病棟実習では看護師1名に学生1名がつき、行われている看護を見学・体験する。日常生活援助を看護師と共に体験し、その後対象患者と会話する時間を持つ。
- 2 実習後、カンファレンスを実施する。
カンファレンスはテーマに沿って自分の意見をメンバーにわかりやすく伝え、意見交換を行う。
プロセスレコードの検討会では、患者の思いは何か、学生はどんな気持ちで話をしているかなど2者間のやり取りの場面から意見交換を行い自己の傾向を考える。

VI 基礎看護学実習Ⅰ 計画表

	1 日目	2 日目	3 日目
実習内容	〈病院実習〉 病院の概要説明 病院の見学 〈病棟実習〉 病棟オリエンテーション 焦点患者紹介	〈病棟実習〉 ・看護師について看護場面の見学 (2 時間程度) ・焦点患者とのコミュニケーション	〈病棟実習〉 ・看護師について看護場面の見学 (2 時間程度) ・焦点患者とのコミュニケーション
記録	実習記録Ⅰ	実習記録Ⅰ ラベル プロセスレコード	実習記録Ⅰ ラベル プロセスレコード
CF		「初めて患者さんと関わって、コミュニケーションについて考えたこと」	プロセスレコード検討会 (半数)
	4 日目	5 日目	実習翌日
実習内容	〈病棟実習〉 ・看護師について看護場面の見学 (2 時間程度) ・焦点患者とのコミュニケーション	AM 〈学内実習〉 ラベルワーク 「私たちが考える看護に必要なコミュニケーションとは何か」について意見交換・作品作り PM (病院 研修棟 2F) ラベルワークの作品発表・意見交換	最終記録の提出
記録	実習記録Ⅰ ラベル	最終レポート テーマ「対象との関わりを通して、自己の傾向について考えたこと」	
CF	プロセスレコード検討会 (半数)		

VII 提出記録

以下の順に綴じて提出する。

- 1 評価表
- 2 実習記録Ⅰ (インパクトシート)
- 3 実習記録Ⅱ (プロセスレコード)
- 4 最終レポート 学生便覧・レポートの書き方参照 原稿用紙 3 枚以上にまとめる。

静岡市立清水看護専門学校 基礎看護学実習Ⅰ評価表

「看護の対象者との関わりを通し、自己の傾向を知り、看護におけるコミュニケーションについて体験的に学ぶ」

学籍番号（ ） 氏名（ ）

学習活動	具体的な評価基準	観点	評価資料	評価基準		
				すばらしい	よい	歩努力を要する
対象とコミュニケーションをとり、その場면을客観的に見つめる。	患者とのコミュニケーションを振り返り、自己の傾向を知る。	対象理解	プロセスレコード カンファレンスの発言	関わりから気になる場面をわかりやすく挙げられ、助言も活かし、自己の傾向に気づき、表現している。 3 0	関わりから気になる場面を挙げられ、自己の傾向を表現している。 2 5	振り返りの内容はコミュニケーション技法に留まっている。 1 0
看護に必要なコミュニケーションについて考え、表現する。	患者の思いを知るために必要なコミュニケーションを考える。	探求心	実習記録Ⅰ カンファレンスの発言 レポート	患者と看護師の関わり、自己と患者との関わりから、看護におけるコミュニケーションについての考えを具体的に表現している。3 0	患者と看護師の関わり、自己と患者との関わりから、自己の考えを表現している。 2 0	関わり場面、自己の考えをそれぞれに表現している。 1 0
グループ内で協力しあう。	グループメンバーと協力して実習に臨んでいる。	調整力 実践力	実習関係者、グループメンバーとのやりとりの状況 cf、GW 運営	グループの一員としてお互いに助言をしあい、リーダーやメンバーとしての役割ができている。1 0	グループの一員として他のメンバーと協力し、実習できている。 8	他者より求められグループメンバーへの意見や役割ができている。5
看護者としての倫理的規範を持ち、行動する。	情報管理を適切に行っている。	倫理観	情報管理の状況 報告連絡相談の状況	個人情報の保護のため、記録の取り扱い、会話の場所など情報漏洩しない行動ができている。1 0	情報の取り扱いに不備があることに気づき、すぐに対処行動ができている。 8	情報の取り扱いについて適切でない状況があった。周囲への影響を考慮することができない。 1
	実習にふさわしい行動をしている。	倫理観	身だしなみ・態度・言葉遣い	身だしなみ・態度・言葉遣いは他者に安心や信頼感が伝わるものである。 5	身だしなみ・態度・言葉遣いについて他者から助言・指導を受け、その意味に気づくことができた。 3	適切な身だしなみ・態度・言葉遣いについて他者から助言・指導を受けたが行動を変えることができていない。 1
	学び続ける姿勢が見られている。	倫理観 探求心	実習記録Ⅰ 記録の提出状況	わからないことは自ら調べたり、アドバイスをもらったりし、積極的に実習できている。 5	アドバイスを受けたことに対して、調べる・相談する行動ができている。 3	わからないことをそのままにしている。 決められた記録を提出していない1
	医療従事者として、医療チームや患者への影響を考え健康管理に努めている。	倫理観 調整力	健康状態 報告連絡相談の状況	自分の体調に応じた感染予防行動が取れた。 自分の体調管理を十分に行え、実習に影響がなかった。 1 0	体調管理についてとるべき行動について指導を受けそれに従っている。 7	体調管理に影響する約束事を守れていない。 1

欠課時間

()時間／90 時間

	学生	指導者
中間評価		
総合評価		

実習指導者サイン _____ 担当教員サイン _____

基礎看護実習Ⅱ

I 実習目標

対象理解に必要な情報を理解し、看護的な気づきから対象理解を深め、対象の望ましい姿に近づくための援助を考え、日々の実践との関連を見出す。

II 評価規準（めざす姿）

- 1 日常生活援助を自ら考えた方法や指導者の考えている方法を共有しながら、日常生活援助と一緒に実施している。
- 2 患者に関わった事象から、自己の気がかりをもとに患者の情報を複数集め、また日々更新されている。
- 3 情報の因果関係の説明を、知識や理論の活用をもとに明らかにしている。
- 4 対象の望ましい姿をふまえた患者理解が進む中で、日々行われている日常生活援助の根拠が理解できる。
- 5 相手の立場に立ち考え、行動につなげる。

III 単位と時間数及び実習場所 2単位 90時間

実習内容	実習場所	時間数	単位
オリエンテーション・実習準備	学内	2	2
病棟実習	静岡市立清水病院	88	

8:30～16:15 9時間/日（休憩時間60分含む）

IV 学習内容及び学習方法

患者を受けもち、1日の目標・計画を立て、指導者と日常生活援助を実施する。

学習活動	実習内容・方法	評価規準	評価資料
指導者と共に日常生活援助を実施する。	（実習1日目） ・ 翌日からの自分の動きをイメージできるよう病棟オリエンテーションを受ける。指導者より病棟の特徴（職員構成、看護体制）・病棟のスケジュール・物品の取り扱い・病棟の構造・災害時の行動・感染予防の方法。情報収集の方法他職種のカンファレンスの参加方法などについて知る。 ・ 実習病棟で行える看護技術を確認し、到達するための計画を立てる。 ・ 受けもち患者を指導者やグループメンバーなどと相談し決定し、挨拶をする。 ・ 受け持ち患者の情報収集を行い、翌日の目標・計画を立案する ・ 患者の発達特性、発達課題をふまえ、理解した受けもち患者の機能障害と援助の方向性について指導者に相談する。 ・ 得た情報の因果関係について整理する。 （2日目以降） ・ 担当看護師に本日の目標・計画を伝え、相談・助言を得	自ら考えた方法や指導者の考えている方法を共有しながら日常生活援助を指導者とともに実施している。	指導者との対話の様子（相談内容・調整の状況・時間・具体的な方法について） 実習記録Ⅰ

	・ なる。 ・ なぜその計画を立案してきたのか、注目している患者の状況や・気づきを表現する。そのうえで、指導者が今注目している状況やチームで優先しているケアの内容について情報を得ながら、指導者と一緒にケアに関われるように調整する。 ・ 対象に合わせた方法や注意点、援助の前・中・後にどのような点を観察すべきか伝え、生活援助を一緒に実施する。 ・ 患者とどのように関わろうとしているのか、具体的に説明する。初回のため援助を見学するのか、見学後で学生が少し援助を行うのか、計画を立て学生が主体で行い指導者がフォローするのか、見守りのみで行えるのかなど、準備状況と計画を伝えながら実施する。 ・ ケア実施後は患者の反応を目標との関連性について実施内容をについて指導者と話し合えるよう、時間を調整する。5W1Hを意識し、実施した援助が目標としたことと、どのように関連しているのか、患者にとってその関わりがどのような意味があるのか、指導者に伝え、指導者の考えを聴く。ミーティングを活用し助言を受ける。 ・ 患者の生活援助にこだわらず、関わりを通しての振り返りも有効となる。		
様々な手段を用いて情報収集を行う。	・ 指導者が行う検温場面の見学を行い、観察の視点・目的を理解する。そのうえで、指導者と共にフィジカルアセスメント技術を用いた観察を行う。血圧測定についてはダブルチェックを受け、単独で行ってよい判断をもらってから単独で実施する。 ・ 患者理解が深めていけるよう、患者との対話、カルテの記録、報告・相談時の助言、ミーティングでの助言を通し、考えを記録に表現する。 ・ 日々変化している情報をタイムリーに得て、患者理解に活かす。 ・ 得た様々な情報を時系列に沿ってわかりやすく整理（表現）する。	患者に関わった事象から、自己の気かきをもとに患者の情報を複数集め、また日々更新されている。	実習記録 I（事象の説明内容）
論理的(クリティカル)に思考する。	・ 現状の分析を、過去と比較、基準値との比較、未来の予測を知識や理論を用いて行う。テキストに基づいた知識を活用する。 ・ 症状（疾患）が起こっているメカニズムを明らかにする。 ・ 対象の基本的欲求の視点（呼吸・循環・体温・食事・排泄・運動・睡眠・清潔・環境・感覚・コミュニケーション・心理・社会）を活用し、充足状態であるのか、未充足であるならば原因・影響を考える。 ・ 毎日患者の気かきを明らかにさせていきながら、対象の像を過去・現在・未来へ立体的につなげてゆき、全体像が描けるように分析を蓄積させる。 ・ ミーティングは、学びを表現することで、対象理解を深め、翌日の対象と関わる手がかりを得るために行う。ミ	情報の因果関係の説明を知識や理論の活用をもとに明らかにしている。	実習記録 I（原因分析の説明内容） 実習記録 II 面接 ミーティングの議題提示・発言内容

	ーティングでは、日々の実習で検討したい内容を学生間で挙げ、意見交換を行う。患者とのエピソードを振り返りながら、問題の共有や解決を図る。テーマに対し、メンバーは自らの経験や学習内容を活かして発言し、あらたな気づきや知識とケアの関連性について結びつくよう意見交換や助言をする。指導者がいる場合は助言をもらう。		
患者に行われている日常生活援助の根拠を説明する。	・ 患者の現象の因果関係と日常生活援助の実施内容の関係や、現象の因果関係からを全体像に示し、自分なりに患者の望ましい姿、問題点を全体像に表記する。 ・ 自分が把握した患者の状況について、指導者に説明し大きな患者理解のずれがないか確認する。 ・ 最終カンファレンスで学びとしてそれらを時間制限内でプレゼンテーションし、チームで意見交換をする。 ・ ねがいを実現するための具体的なプランや日々の実施を通しての患者の変化など、道筋がわかるように説明する。 ・ 問題の抽出や全体像の理解を終え、独自に考えられた援助があれば発表の時に伝えてもよい。	対象の望ましい姿を踏まえた患者理解が進む中で、日々行われている日常生活の援助が理解できる。	実習記録 Ⅰ・Ⅱ 最終日カンファレンスの発表内容

その他

- ・ ミーティングは1グループを2チームに分けて行う。学生間で事前にテーマを決定し事前に教員・指導者に伝える。問題を抱えている学生は特に自主的に取り上げるとよい。
- ・ 患者とのかかわりやその他実習中に生じた出来事で判断に迷うこと・困ったことは、タイムリーに指導者やグループメンバーに相談し、解決しながら実習する。
- ・ 記録には個人情報記載されるため、紛失しないようファイリングする。実習中のコピーは学内のコピー機のみ使用し、紛失しないよう最後まで管理する。

V 提出記録

- 1 評価表
- 2 記録Ⅰ
- 3 記録Ⅱ
- 4 体温表
- 5 実習中に作成した資料

※実習中の日々の記録物は各担当教員の指示のもと、提出を行う。

※実習後の最終記録提出については番号の順番にファイルに綴じてグループごと担当教員に提出する。

VI 実習計画表

日付		1 日目	2 日目	3 日目
内容	実習オリエンテーション (2 時間)	病棟オリエンテーション 病棟実習 ・受け持ち患者紹介・挨拶 ・情報収集 ・日常生活援助を指導者と共に実施	病棟実習 ・指導者と共に日常生活援助を実施 ・得た情報や、日常生活援助中の気がかりから原因を分析する。	病棟実習 →
記録		基礎看護実習記録 I II	基礎看護学実習記録 I II	基礎看護学実習記録 I II
MT			○	○
日付	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目
内容	病棟実習 ・指導者と共に日常生活援助を実施 ・得た情報や、日常生活援助中の気がかりから原因を分析する。	病棟実習 □技術到達チェックリストの確認。	病棟実習 ・望ましい姿や看護問題を考える。	病棟実習 → →
記録	基礎看護学実習記録 I II	基礎看護学実習記録 I II 中間評価	基礎看護学実習記録 I II	基礎看護学実習記録 I II
MT	○	○	○	○
日付	8 日目	9 日目	10 日目	
内容	病棟実習 ・指導者と共に日常生活援助を実施 ・得た情報や、日常生活援助中の気がかりから原因を分析する。 ・望ましい姿や看護問題を考え、援助の根拠を考えながら実施する。	病棟実習 →	病棟実習 (午前 5 時間) カンファレンス (午後 2 時間)「患者理解と実践について」記録 II を用いて。 □指導者さんより、技術到達チェックリストのサインを確実にもらう。	最終記録提出
記録	基礎看護学実習記録 I II	基礎看護学実習記録 I II	基礎看護学実習記録 I II	
MT	○	○	午後に CF として実施	

目標：対象理解に必要な情報を理解し、看護的な気づきから対象理解を深め、対象の望ましい姿に近づくための援助を考え、日々の実践との関連を見出す。

	学習活動	評価規準	観点	評価資料	評価基準		
					すばらしい	よい	努力を要する
1	指導者と共に日常生活援助を実施する。	自ら考えた方法や指導者の考えている方法を共有しながら、日常生活援助を一緒に実施している。	調整力 実践力	指導者との対話の様子 実習記録Ⅰ	自分の考えた方法を指導者と共有し、助言をもらい、その理由を考えたうえで、実施している。 援助計画を具体的に立てている。 20	なぜその援助を必要としているか自分の考えに基づいて計画し、看護師と援助を実施している。 15	日常生活援助の根拠が曖昧である。 援助計画の内容がいつまでも具体的ににならない。 5
2	様々な手段を用いて情報収集を行う。	患者に関わった事象から、自己の気がかりをもとに患者の情報を複数集め、また日々更新されている。	対象理解 実践力	実習記録Ⅰ（事象の説明内容）	情報は、対話・カルテ・指導者・フィジカルイグザミネーションを用いて複数かつタイムリーであり、日々更新される情報に着目している。 事象の説明は時間・人物・様子などが明確にで、誰にもわかりやすい表現である。 20	情報は、対話・フィジカルアセスメント・観察によって収集している。 事象の説明が明確でない。 15	多くはカルテからの情報を集めている。 情報が不足し、事象の説明が不十分である。 10
3	論理的(クリティカル)に思考する。	情報の因果関係の説明を、知識や理論の活用をもとに明らかにしている。	探求心	実習記録Ⅰ（原因）分析の説明内容） 実習記録Ⅱ 面接 ミーティングの議題提示と発言内容	気がかりな事象の説明は、情報どうしの因果関係をテキストや資料を活用し説明し、理解した情報や分析を繋いだり、新たな推測に発展させている。 25	気がかりな事象の説明は、情報どうしの因果関係を、テキストや資料を活用し説明している。 20	問題が生活や人生に与える影響や問題が解決されないときの予測が主観的である。 根拠のない憶測が多い。 5
4	患者に行われている日常生活援助の根拠を説明する。	対象の望ましい姿をふまえた患者理解が進む中で、日々行われている日常生活援助の根拠が理解できる。	対象理解 探求心	実習記録Ⅰ・Ⅱ 最終日カンファレンスの発表内容	日々の情報やクリティカルな思考が蓄積されている。対象の望ましい姿や看護問題が挙がり、日々実施した援助との関連を実践したエピソードと関連させて説明している。 15	対象の望ましい姿や看護問題が挙がり、日々実施した援助との関連を説明している。 10	日常生活援助の根拠があいまいである。 3
5	看護師として倫理的規範を持ち行動する。	知り得た情報の管理ができる。	倫理観	記録用紙・メモの管理 実習中・実習後の行動	受け取った個人情報を適切に管理し、プライバシーを守っている。 10		知り得た個人情報が、適切に管理できない。 0
		信頼構築のための行動が取れる。	倫理観	時間管理、体調管理、言葉遣い、身だしなみ 実習準備状況	時間(管理)・体調・言葉遣い・身だしなみが毎日整えられた。 事前準備を整えて臨めた。 5	時間(管理)・体調・言葉遣い・身だしなみを整えようとしていた。 3	時間・体調・言葉遣い・身だしなみを整えようとしていたが、他者からは受け入れられなかった。 0
		患者が安心や希望を持てる関係を築こうとしている。	倫理観 調整力	患者とのかかわり 面接	表情・言葉・声のトーン・ふるまいなどの眼差しや行動が、患者に効果的に作用している。 5	表情・言葉・声のトーン・ふるまいなどの眼差しや行動を工夫している。 3	表情・言葉・声のトーン・ふるまいなどの眼差しや行動が、患者に受け入れられなかった。 0

※学生評価は、各評価項目の該当する評価基準の欄と、総合点に黒のボールペンで日付・点数を記入し、提出する。（中間と最終で行う）

欠課時間：	時間
中間評価：学生	/教員
最終評価：学生	/教員

実習指導者サイン()

担当教員サイン ()

基礎看護実習Ⅲ

I 実習目標

自己の看護実践を省察し、他者からの意見をふまえ、よりよい看護を追求し、看護者として自己を高める。

II 評価規準（めざす姿）

- 1 日常生活援助を実施するために根拠を考え計画し、指導者と共有しながら援助を一緒に実施する。
- 2 実践後は疑問や気がかりをきっかけに、手順を踏み、自己と対象の双方について体験場면을描写する。
- 3 実習中の気がかりな出来事について批判的分析の視点で思考する。
- 4 振りかえりの結果、新たな看護実践や自分自身の行動・傾向への気づきが明確になっている。
- 5 看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。

III 単位と時間数及び実習場所 2単位 90時間

実習内容	実習場所	時間数	単位
オリエンテーション・実習準備	学内	2	2
病棟実習	静岡市立清水病院	88	

8:30～16:15 9時間/日（休憩時間 60 分含む）

IV 学習内容

患者を受けもち、1日の目標・計画を立て、看護過程を展開する。

学習活動	実習内容・方法	評価規準	評価資料
指導者と共に日常生活援助を実施する。	（実習1日目） ・ 翌日からの自分の動きをイメージできるよう病棟オリエンテーションを受ける。指導者より病棟の特徴（職員構成、看護体制）・病棟のスケジュール・物品の取り扱い・病棟の構造・災害時の行動・感染予防の方法。情報収集の方法他職種のカンファレンスの参加方法などについて知る。 ・ 実習病棟で行える看護技術を確認し、到達するための計画を立てる。 ・ 受けもち患者を指導者やグループメンバーなどと相談し決定し、挨拶をする。 ・ 受けもち患者に対する看護問題をスタッフより説明してもらい、情報収集した内容を含めて、看護問題を解決するための翌日の目標・計画を立案する。 （2日目以降） ・ 担当看護師に本日の目標・計画（計画を立案した根拠を問題点と関連付けて）伝え、相談・助言を得る。 ・ 指導者が今注目している状況やチームで優先しているケ	日常生活援助を実施するために根拠を考え計画し、指導者と共有しながら、援助を一緒に実施している。	指導者との対話の様子 実習記録 I（援助計画）

	アの内容について情報を得ながら、指導者と一緒にケアに関われるように調整する。 - 対象に合わせた方法や注意点、援助の前・中・後にどのような点を観察すべきか伝え、生活援助と一緒に実施する。 - 原則として指導者と一緒に援助を実施する。事前に注意すべき点や手伝ってほしいことについて打ち合わせをしておく。 - 実施に際し、必要であった知識、補った知識、助言内容から、患者のねがう生活へ向けた、プランをより良いものへ追加・修正・続行・中断を理由と共に明らかにする。患者とのかかわりやその他実習中に生じた出来事で判断に迷うこと・困ったことは、タイムリーに指導者やグループメンバーに相談し、解決しながら実習する。		
自己の看護実践を表記する。	- ケア実施後は患者の反応を問題との関連性について実施内容をについて指導者と話し合えるよう、時間を調整する。5W1Hを意識し、実施した援助が目標としたことと、どのように関連しているのか、患者にとってその関わりがどのような意味があるのか、指導者に伝え、指導者の考えを聞く。ミーティングを活用し助言を受ける。 - 患者の生活援助を通した、関わり場面すべてから気づいたことを振り返る。 5W1Hを意識し、実施した内容、関わった内容について、なにが起こったか、具体的な状況、自分や看護師の役割、結果について表記する。また、その時の自分の感情に注目する。その後の状況の変化によって自分の感情の変化に注目し、表現する。 - 表現は、自分の感情 自分の感情の変化、事実の状況が聴き手、読み手に伝わるように工夫する。	実践後は疑問や気がかりをきっかけに、手順を踏み、自己と対象の双方について体験場面を描写している。	実習記録Ⅰ（リフレクションシート） 面接 ミーティング・最終カンファレンスの発表内容
実習の実践体験をリフレクティブに振り返る。	- ケア実施後はケアの実施前・中・後を通して振り返る時間を持ち、患者の反応と目標の関連性について実施内容を伝えられるよう、時間を調整する。患者の生活援助にこだわらず、関わりを通しての振り返りでもよい。 - 自分自身で援助を振り返るときは、自己の反応や患者（気がかりが生じた他者）の反応から、問題の原因はどこにあったのかを深く究明し、自分自身の行動や傾向を踏まえて振り返られるようにする。 5W1Hを意識し、実施した援助が目標としたことと、どのように関連しているのか、患者にとってその関わりがどのような意味があるのか、省察する。 - 倫理の原則と照らし合わせ、実習中の気がかりな場面をリフレクションノート（シート）に振り返る。 - 医療に関する4つの倫理原則（自立尊重原則・善行原則・無危害原則・正義原則）と医療専門職の義務の基礎となる2つの倫理原則（誠実・忠誠）と照らし合わせ、看護	実習中の気がかりな出来事について批判的分析の視点で思考する。	実習記録Ⅰ（リフレクションシート） 実習記録Ⅱ 面接 ミーティング・最終カンファレンスの発表内容

	方針を出す。 ・ 振り返った内容を一人ずつ毎日のミーティングの議題に挙げ、話し合う。 ・ 話し合うときは、具体的な場面が伝わるようにリフレクションノート（シート）の記述内容をメンバーに資料として配布する。 ・ ミーティングに参加するメンバーは、事前に資料に目を通し、どのようにその状況がみえるか、承認のメッセージ、を具体的に伝える。具体的に良いと思う行動、そうではないと思う行動について根拠、理由を添えながらその意見を述べる。 ・ テーマの内容がお互いに深め合えるよう参加する。 ・ プロから学ぶ姿勢を常にもち、患者が良い方向性へ向かうための関わりをもてるよう、看護方針について指導者から助言を受ける。		
実践を評価する。	・ 振り返りをもとに、看護問題解決のために実施したケアの内容や自分自身の行動の気づきなどを明らかにし、その修正に向けた対策を考える。 ・ 振り返った内容をミーティングにおいてもメンバー、指導者と検討し、修正に向けた実践内容や自己への気づきを深める。 ・ 最終カンファレンスにて、日々実践した体験を通じた自分への気づきを表現する。	振り返りの結果、新たな看護実践や自分自身の行動・傾向への気づきが明確になっている。	実習記録Ⅰ（リフレクションシート） 実習記録Ⅱ ミーティング・最終日カンファレンスの発表内容

その他

- ・ ミーティングは1グループを2チームに分けて行う。学生間で事前にテーマを決定し事前に教員・指導者に伝える。問題を抱えている学生は特に自主的に取り上げるとよい。
- ・ 患者とのかかわりやその他実習中に生じた出来事で判断に迷うこと・困ったことは、タイムリーに指導者やグループメンバーに相談し、解決しながら実習する。
- ・ 記録には個人情報記載されるため、紛失しないようファイリングする。実習中のコピーは学内のコピー機のみ使用し、紛失しないよう最後まで管理する。

V 提出記録

- 1 評価表
- 2 記録Ⅰ
- 3 記録Ⅱ
- 4 体温表
- 5 実習中に作成した資料

※実習中の日々の記録物は各担当教員の指示のもと、提出を行う。

※実習後の最終記録提出については番号の順番にファイルに綴じてグループごと担当教員に提出する。

VI 実習計画表

日付		1 日目	2 日目	3 日目
内容	学内オリエンテーション (2時間)	病棟オリエンテーション 病棟実習 ・受け持ち患者紹介・看護 問題の説明を受ける。 ・挨拶 ・情報収集 ・日常生活援助を指導者と 共に実施	病棟実習 ・受けもち患者の看護計画 を立案し、指導者と共に 日常生活援助を実施す る。 ・実施後は実践の振り返り を丁寧に行う	病棟実習 →
記録		I	I	I
MT			○	○
日付	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目
内容	病棟実習 ・受けもち患者の看護計画 を立案し、指導者と共に 日常生活援助を実施す る。 ・実施後は実践の振り返り を丁寧に行う	病棟実習 → □技術到達チェックリス トの確認	病棟実習	病棟実習 →
記録	I	I 中間評価	I	I
MT	○	○	○	○
日付	8 日目	9 日目	10 日目	
内容	病棟実習 ・受けもち患者の看護計画 を立案し、指導者と共に 日常生活援助を実施す る。 ・実施後は実践の振り返り を丁寧に行う	病棟実習 →	病棟実習 (午前5時間) → カンファレンス (午後2時 間)「記録Ⅱをもちいて自 己の行った看護を振り返 る。」 □指導者さんより、技術到 達チェックリストのサイ ンを確実にもらう。	最終記録提出
記録	I	I・II	I	
MT	○	○	午後に CF として実施	

目標：自己の看護実践を省察し、他者からの意見をふまえ、よりよい看護を追求し、看護者として自己を高める。

	学習活動	評価規準	観点	評価資料	評価基準		
					すばらしい	よい	努力を要する
1	指導者と共に日常生活援助を実施する。	日常生活援助を実施するために根拠を考え計画し、指導者と共有しながら、援助と一緒に実施している。	調整力 実践力	指導者との対話の様子 実習記録Ⅰ（援助計画）	病棟の看護問題をもとに、解決のための援助計画を具体的、知識を活用しながら立て、看護師と実践を繰り返している。 20	なぜその援助を必要としている知識の活用は十分ではないが、自分の考えに基づいて計画し、看護師と援助を実施している。 15	日常生活援助の計画に知識の活用はない。 指導者と一緒に実践することが難しい。 5
2	自己の看護実践を表記する。	実践後は疑問や気がかりをきっかけに、手順を踏み、自己と対象の双方について体験場面を描写している。	実践力 探求心	実習記録Ⅰ（リフレクションシート） 面接 ミーティング・最終カンファレンスの発表内容	実習で体験した具体的な状況を、患者・看護師・自己の言動、自己の感情やその変化など、誰にもわかるように記述し、ミーティングで発表している。 15	実習で体験した状況を描写しているが、疑問や看護の気がかりでないことが多い。 10	状況が部分的で状況が分かりにくい。 5
3	実習の実践体験をリフレクティブに振り返る。	実習中の気がかりな出来事について批判的分析の視点で思考する。	探求心	実習記録Ⅰ（リフレクションシート） 実習記録Ⅱ 面接 ミーティング・最終カンファレンスの発表内容	振り返りの視点に、知識を使い、その時の感情を考え、問題の究明を行い、代替え案を出している。 倫理原則に沿って自分の行いを深く振り返っている。 他者の振り返りにも積極的な意見を出せた。 30	振り返りの視点に、知識を使い、その時の感情を考え、問題の究明を行い、代替え案を出している。 20	振り返りの視点に、知識を使い、その時の感情を考え、問題の究明を行い、代替え案のいずれかのみ振り返っている。 他者の振り返りで意見が少ない。 カンファレンスに一度も提示できない。 5
4	実践を評価する。	振りかえりの結果、新たな看護実践や自分自身の行動・傾向への気づきが明確になっている。	対象理解 探求心	実習記録Ⅰ（リフレクションシート） 実習記録Ⅱ ミーティング・最終日カンファレンスの発表内容	看護実践をよりよくするための修正ができたり、自分自身への気づきや改善に向けた具体的策が述べられ、自覚的である。 15	看護実践をよりよくするための修正のみできている。 10	内発的な修正や自己への気づきがない。 3
5	医療者として、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動をとる。	看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る必要性を理解し、適切な行動を取っている。 20	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 15	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している 0

※学生評価は、各評価項目の該当する評価基準の欄と、総合点に黒のボールペンで日付・点数を記入し、提出する。（中間と最終で行う）

欠課時間：	時間	実習指導者サイン（	）
中間評価：学生	/教員	担当教員サイン（	）
最終評価：学生	/教員		